

# 小寒



校長通信『道標(みちしるべ)』 第25号

令和4年1月7日

福岡県立若松商業高等学校 校長 谷川 陽一



令和四年 壬虎 (みずのえとら)

二十四節気：1月5日(水) 小寒 (しょうかん)

小寒とは、「寒の入り」といわれ、これから一段と寒さが厳しくなるころです。小寒から節分(2月3日)までの30日間のことを「寒の内」といいます。節分の次の日が立春(りっしゅん：春の始まりであり、1年の始まりとされる日)になります。

## 令和3年度 第3学期の始業に当たって - 1年の計は元旦にあり -

新年あけまして、おめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症に翻弄(ほんろう)された年でした。一刻も早く終息して欲しいと願います。そして、コロナ以前の学校生活を取り戻すためには、皆さん一人ひとりの自覚ある行動が不可欠です。これまでどおり感染症防止対策を万全に学校生活を送ってください。3学期も生徒の皆さんが「今しか得られない経験や学び」を止めることがないよう、先生方も全力で支えています。

さて、年の初めに皆さんに「志」についてお伝えします。「一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり」と言われます。これは、1日の計画は朝に立て、1年の計画は元旦に立てなさいということであり、物事は最初が肝心(かんじん)であるというたとえです。何事も始めるに当たり、最初にきちんとした計画、つまり「志」を立てることが大切だということです。

本校の教育目標に「志を立てて万事の源とす」と掲(か)げています。生徒の皆さんのそれぞれの「志」の実現を目指し、学校として組織的に支援するため「ころぞし実現講座」や「土曜セミナー」を実施しています。「志」が明確でなくとも、自分を磨く場所に身を置くことで目標が定まることもあります。これらを活用して夢を磨きましょう。

「志」は誰かに決められるものではなく、己の心の声に耳を傾け、自分らしくそれぞれが望む人生の目標を自ら定めることです。人は仕事を通して「生き甲斐」や「やり甲斐」である自己実現を目指します。だからこそ進路選択や職種選択は重要なのです。興味・関心ある職種は大学等に進学しなければいけないのか、それとも高校卒業後すぐに就けるのか。なりたい自分に近づくための将来の職種を決めることで「志」が定まります。

皆さんの「志」の実現に近づけることが、われわれ教師の使命でもあります。本校の校是(こうぜ)は「強いところ」と「あたたかい心」です。生徒の皆さんの「志」が実現できるよう「強いところ」を育てるため、先生方は厳しくも「あたたかい心」で支援していきます。

心に目指すところがきちんと定まれば、やる気もそれに従い、目標が遠すぎることはありません。先生方は無限の可能性を秘めた生徒の皆さんの力を信じています。皆さんの「志」の実現を若商は全力でバックアップします。

二度と来ない若き日々を大切に、充実した1年を送ることを心から願っています。

令和3年度 第3学期 始業式 校長式辞から

## 物事の原点に目を凝(こ)らす - 身近な文化や地域の行事について -

【七草がゆ】(春の七草：セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ)

\*短歌(57577)調で覚えましょう。「せりなずな、ごぎょうはこべら、ほとけのざ、すずなすずしろ、はるのななくさ」

今日は1月7日ですね。「七草がゆ」は食べますか?最近コンビニやスーパーでも温めるだけで食べられるものも販売してますね。「七草がゆ」は無病息災を願い、正月7日に春の七草の入ったお粥を食べます。わが国では古来から、正月に若菜を摘(つ)んで食べる「若菜摘み」という風習があり、現在の「七草がゆ」のもとになったといわれています。また、正月料理で疲れた胃を休めることや、野菜が乏しい冬場に不足しがちな栄養素を補うという意味もあるとのこと。



【十日恵比須(えびす)】「♪商売繁盛で笹持ってこい♪」※祭りの掛け声



十日恵比須(毎年1月10日前後日実施)は、商売繁盛、家内安全などの願い込めた新春の祭りです。地元若松でも「おえべっさん」として親しまれ、本校の校章の由来でもある若松恵比須神社でも毎年多くの参詣者が訪れます。一説では、1月10日は恵比須様の誕生日とのこと。

※笹は真冬でも青々として縁起良いので威勢のいい掛け声のもとになったとのこと。